



△『中日新聞』2014年1月22日記事

ホーム最終戦 ホーム勝てず

フットサルの全国リーグ、ウイダーFリーグは26日、浜松アリーナなどで後期14試合の第32節を行った。浜松は大分に2-4で敗れ、ホーム最終戦を百星で飾ることができなかつた。

浜松は素早いパス回しで積極的に攻撃を仕掛けた。1点を追う前半12分、江藤が相手ディフェンスの隙を突く鋭いドリブルで攻め上り、そのまま同点ゴールを決めた。さらに1分後、松本が相手GKの裏をかきつけた攻撃で相手GKの裏をかきつけた。しかし、相手の素早いカウンターなどで失点を重ね、1点差で前半を折り返した。

後半も浜松は果敢に敵陣に挑んだが、逆に残り時間2分に追加点を許した。必死のパワーペースも大分の落ち着いた守備に阻まれ、

勢いに押され後半は無得点。○：浜松は前半、カウンター得意とする大分と激しいシーソー。後半は無得点に終わる。三輪主将は「戦う姿勢は良かったが、一

人一人がプレーの質を上げなければ勝てない」と振り返った。保田監督は終了間際のパワープレーについて「試合最後の4、5分をかけ同点に追いつきたかった」と呟いた。しかしゲーム終盤チームは相手の勢いに押され「不用意に全員攻撃を指示することができなかった」と指摘。反対に試合を決定づける1点を失い、追加点を奪う時間も大きく削られた。保田監督は「選手が疲れたときのプレーの精度を高めたい」と残る4試合への課題を示した。



浜松・大分 前半、相手ディフェンスの隙を突き、ドリブルで攻め上がる江藤(右)=浜松アリーナ

『静岡新聞』
2014年1月27日記事